

COPDとは、以前は「肺気腫」や「慢性気管支炎」と呼ばれていた病気です。全国調査では40歳以上の成人の8%（約500万人）がCOPDであるという結果が出ています。

COPD はどんな病気？

長期の喫煙で肺が破壊され、年単位で肺機能が低下し呼吸不全に至る病気です。喫煙率の下げ止まりと喫煙者の高齢化により今後増加すると予想されています。

主な症状はセキ・タン・息切れです。初期には気付かなく、進行してから診断される方もいらっしゃいます。



私は COPD でしょうか？

診断に用いる簡易質問票の中で、以下の複数の項目に当てはまる方は検査をお勧めします。

- 現在や過去に喫煙歴（1日の本数×喫煙年数が500を超えると特に危険）
- 天候で悪化するセキ
- よくタンがからむ（特に日中）
- 息をはく時にゼイゼイやヒューヒューという
- アレルギーがない

どんな検査をしますか？

肺機能検査（肺活量の測定など）や胸部レントゲン検査を行います。肺機能検査ではCOPDの程度（重症度）まで分かります。



どのように治療しますか？

肺機能や症状の程度で治療を選びます。軽症では禁煙のみでよいことも多く、中等症であれば吸入治療（気管支拡張剤）、重症の場合は在宅酸素療法や呼吸リハビリ療法なども追加していきます。

肺機能は加齢変化としても低下します。そのため治療は長期間必要ですが、安定している方はお近くの“かかりつけ医”で治療できます。治療薬が合わなくなってきた場合やカゼなどの後に急激に症状が悪化（急性増悪）する場合は、かかりつけ医と相談のうえ当院へ受診してください。

今の医学では一度壊れてしまった肺を元に戻すことはできません。そのためCOPDではない方でも、できるだけ早く禁煙することが最も大切です。

